

JA自己改革ニュース

2024.2.8

自己改革
実践
サイクル編
No.20



全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan（計画）→Do（実行）→Check（確認）→Act（改善）の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。



鹿児島県 JAそお鹿児島

組合員の意見を結集し、販売を一層強化

P

JAそお鹿児島は、組合員との徹底した対話に基づき、不断の自己改革をすすめています。農業者の所得増大に向けては、組合員の収入拡大対策やコスト抑制対策に取り組んでいます。

D

組合員の経営支援のため、組合員・担い手のもとに出向き、対話する専門担当部署「TAF」（トータルアドバイザー・ふれあい）を設立して25年。TAF職員は今年度の訪問では、ピーマン等の契約取引拡大や肥料の配送コストの低減に向けた取り組みなどを重点的に説明し、組合員の意見や要望を聴き取っています。2023年度の訪問実績は12月時点で3,960回、年度内に4,320回の訪問を目指しています。

A

組合員の声は、毎月の企画会や、2月に開催予定の自己改革取組宣言の見直し検討会等で役員・ライン長間で共有します。これら組合員の意見・声をふまえ、さらなる農業者の所得増大を目指し、次年度の改革方針策定につなげていきます。

C

TAF職員による訪問活動や、組合員をはじめとするイベント来場者1,300人以上から回答をいただいた自己改革に関するアンケートなどを通して、組合員の意見や要望を収集しています。

組合員からは「気候変動の影響で、特産品が他産地でも生産できるようになり、優位性が揺らいでいる。収入拡大対策として、地の利を生かし、有利に販売ができそうな農作物の紹介を期待している」という声などをいただきました。

これら組合員の声、評価を受け、今後のJA事業や活動、自己改革の取り組みを改善していきます。

TAFによる定例訪問の回数

22年度実績

3,515件



23年度目標

4,320件



訪問活動で組合員の声を聴く竹内和久組合長（写真右）とTAF職員（写真中央下）

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。